

## 東京地学協会平成 19 年度研究・調査助成金等交付申請の受付について

### I. 助成対象

本協会の会員、または、会員が加わっている研究グループが、平成 19 年 6 月以降、向こう 12 ヶ月の間に行なう以下の活動。

- 1) 地学に関する研究・調査（一般）
- 2) シニア研究者（満 60 歳以上）の地学に関する研究・調査
- 3) 若手研究者（35 歳未満）の地学に関する研究・調査
- 4) 外国人研究者（留学生を含む）の地学に関する研究・調査
- 5) 地学の教育法や教材開発などの地学の普及活動
- 6) 国内で開かれる地学に関する国際研究集会

上記の 2)、3)、4) に研究グループとして申請する場合は、原則として、グループ構成員中、該当する者が 3 分の 1 以上であること。

### II. 助成の種類

- 1) 一般研究・調査助成金
- 2) シニア研究者の研究・調査助成金
- 3) 若手研究者の研究・調査助成金
- 4) 外国人研究者の研究・調査助成金
- 5) 地学の普及活動助成金
- 6) 国内で開かれる地学に関する国際研究集会助成金
- 7) 国内で開かれる地学に関する国際研究集会開催に対する貸付金

原則として、申請者（研究グループ構成員を含む）は、上記の 1)～6) に重複申請を行なってはならない。

1 件あたりの金額は 1)～6) についてはそれぞれ 50 万円以内、7) については 100 万円以内を原則とする。（平成 19 年度の場合、総額は約 400 万円の予定）

### III. 助成を受けた者の義務

- 1) 助成金を受けた者は、成果の要旨を地学雑誌に発表すること。
- 2) 助成助金を受けた者は最終報告書 2 部を本協会あて提出すること。
- 3) 助成金使用に関する会計報告書を提出すること（領収書あるいはそのコピー等を添付すること）。
- 4) 貸付金は 1 年以内に返還するものとし、その間は無利子とする。

### IV. 審査決定：平成 19 年 5 月下旬（予定）

## 2006 年度海外見学旅行「メコン河とトンレサップ湖をたずねる」

### 内 容：

今回は東南アジア最大の河川であるメコン河と、メコン河につながる東南アジア最大の湖、トンレサップ湖をたずねる巡検を企画しました。

メコン河はチベット高原に発し、中国、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムを流れる延長約 4600 km の国際河川ですが、今回はその下流部のカンボジアで、メコン河とトンレサップ湖を見学します。

カンボジアは 1991 年のパリ和平協定による内戦終結以来、新たな国づくりをすすめ、観光にも非常に力を入れています。一般の旅行での安全面ではタイなどの隣国と変わらない状況です。カンボジアの首都プノンペンでは、メコン河とトンレサップ河が合流し、さらにメコン河とバサック河が分流するため、これらは「四つの顔」、または「四本の腕」とも呼ばれます。メコン河に合流するトンレサップ河は、雨季になるとメコン河の水が逆流し、トンレサップ湖へ流れ込みます。また、「四つの顔」やトンレサップ湖周辺には広大な氾濫原が広がります。

トンレサップ湖は雨季と乾季とでその面積が 5 倍にも変化し、それにもなって水深が 1 m 以下から 8 m 以上にも変化する「伸縮する水域」として有名です。また、世界最高の淡水生物多様性を誇るこの湖には淡水フグや淡水エイなども生息しており、この湖が生み出す水産資源が、先史時代から現在に至るまで、カンボジアに住む人々の生活を支えてきたとも言えるでしょう。

プノンペンではメコン河・トンレサップ河のほか、国立博物館やマーケットなどを見学の予定です。プノンペンからアンコール遺跡で名高いシエムリアブに移動し、トンレサップ湖をボートで見学します。湖底堆積物によるトンレサップ湖の環境変化の研究や、浸水林や魚類など独特の生態系についても説明する予定です。

また、アンコールワットをはじめとする遺跡群の見学もします。遺跡に使われた砂岩は、シエムリアブ北方のクーレン山の石切場から運び出されたといわれています。クーレン山では中～新生代の砂岩露頭を見学し、アンコール遺跡を構成する石材の供給源をたずねます。

**期 間：**2007 年 3 月 10 日（土）～ 16 日（金）6 泊 7 日

**訪問国：**カンボジア、タイ

### 日 程（予定）：

- 3 月 10 日 成田～バンコク ～プノンペン（プノンペン泊）
- 11 日 プノンペン市内見学（メコン河、博物館）（プノンペン泊）
- 12 日 プノンペン～シエムリアブ（陸路）、時間があればアンコールワット見学（シエムリアブ泊）
- 13 日 トンレサップ湖見学、アンコール遺跡見学（シエムリアブ泊）
- 14 日 クーレン山石切場（砂岩露頭）、アンコール遺跡見学（シエムリアブ泊）
- 15 日 アンコール遺跡見学後、シエムリアブ～バンコク（バンコク泊）
- 16 日 バンコク～成田（解散）

注：旅行会社の添乗員は同行しません。案内者および現地ガイドが同行します。現地は主にバスで移動します。遺跡内は徒歩見学になります。

**企 画**：東京地学協会

**旅行主催**：風の旅行社

**カンボジア現地手配**：ピース・イン・ツアー  
<http://www.pitt.jp/>

**案 内 者**：塚脇真二（金沢大）、久保純子（早稲田大）、本村浩之（鹿児島大）、荒木祐二（横浜国立大）

**定 員**：30 名程度

**対 象 者**：地学に興味を持つ一般の方々

**参 加 費**：一人 20 ～ 25 万円の予定

航空券 成田～バンコク～プノンペン、シエムリアップ～バンコク～成田  
宿 泊 プノンペン 2 泊、シエムリアップ 3 泊、バンコク 1 泊（全食事付）  
博物館・遺跡等入場料  
バス借上代、ガイド代、ボート手配  
旅行手配  
巡検資料代

上記費用に含まれないもの  
成田までの往復費用  
カンボジアビザ取得費  
旅行保険代

**申込締切**：2007 年 1 月 19 日（金）

**申込方法**：はがき、ファクスまたは E-mail にて必要事項を下記あてお送りください。

複数参加の場合は全員分を記入してください。

〔記載事項〕 名前・住所（連絡先）、電話（ファックス）番号、E-mail、年齢、職業

〔送付先〕 はがき 〒102 0084 千代田区二番町 12 2 東京地学協会海外見学旅行係 宛  
ファクス 03 3263 0257 東京地学協会海外見学旅行係 宛  
E-mail : chigaku@abox9.so-net.ne.jp Subject : 海外見学旅行

・最新情報はホームページでお知らせしてまいります。

## 地学クラブのお知らせ

地学クラブ講演会の予定が下記の通り決まりました。多数ご来場下さるようご案内申し上げます。

### 記

- ・ 12月20日(水) 15:30 ~ 17:00

「地下利用における ROCK MECHANICS の課題 石油備蓄を例として」

星野一男(元地質調査所(現産業技術総合研究所)燃料資源部長)

#### (要旨)

ROCK MECHANICS は一般に「岩石物性」または「岩の力学」と翻訳されている。地質、岩石、鉱物、地震などの理学から鉱山、石油、土木、建築などの工学を含む広範な境界領域である。発足以来半世紀を経て多くの成果が生まれていると共にさまざまな課題も浮かび上がってきている。

石油の地下備蓄は石油危機問題に端を発して具体化された国家プロジェクトである。約10年の調査期間を経て、1994年に数百平方メートルの断面と数百メートルの長さを持つ巨大な地下トンネル(複数)内に計5百万キロリットルの原油が貯蔵された備蓄基地が完成した。このプロジェクトにおいて事前の地質調査から、適地選定、地下建設工事の諸段階で「岩石物性」、「岩の力学」がどのようにかわってきたかを振り返って、理学と工学の効果的な連携について考察する。

### 1月以降の予定は以下の通りです。

- ・ 1月19日(金) 14:00 ~ 15:30

「新鉱物とその発見」

松原 聡(国立科学博物館)

- ・ 2月20日(火) 14:00 ~ 15:30

「低周波地震(仮題)」

小原一成(防災科学技術研究所)

- ・ 3月20日(火) 14:00 ~ 15:30

「衛星データから見た最近の自然災害(仮題)」

中山裕則(日本大学)